

平成28年度 第1回美術館セミナー

- 1 日時 平成28年8月9日(火) 10:30~15:00
2 場所 茨城県近代美術館 地階講堂, 1階所蔵作品展示室
3 参加者 県内の小学校・中学校・高等学校, 特別支援学校の教員90名,
当館ボランティア7名, 博物館実習生5名
当館職員(ファシリテーター等)9名 合計111名
4 活動内容
10:00~10:30 受付(地階講堂前)
10:30~12:00 美術教育講演会

「これからの鑑賞教育」

講師：内藤 正人 氏 (慶應義塾大学教授)

【プロフィール】



1963年、愛知県名古屋市生まれ。
慶應義塾大学文学部史学科を卒業後、同大学院を修了。
大学講師、出光美術館主任学芸員を経て2011年より現職。
専門は江戸時代絵画・版画史。浮世絵のほか、琳派や江戸狩野派などの論考がある。高等学校美術の教科書の著作者。慶應義塾大学アートセンター所長、高橋誠一郎浮世絵コレクション委員会委員を務める。主著に『もっと知りたい歌川広重』(東京美術)、『浮世絵再発見』(小学館)、『日本美術史』(美術出版ライブラリー)、『浮世絵とパトロン』(慶應義塾大学出版会)等。対話型鑑賞に書くことを加えたディスクリプション鑑賞を唱えている。



講演会の様子

子どもたちへの鑑賞教育についてお話しいただきました。「見ているようで見えていないことがある。意識して『見る』と、初めて分かることがある。」「日本の美術館では、小さい子どもは『うるさい』と敬遠

されがちだが、本当はそうではない。」「教育の場では、子どもたちのグループを積極的に連れて行き、静かに見ることを指導した上で、その作品について自由に語らせるといい。」「子どもたちが、自分の感性で自由に語る経験を積めるようにする。」等、美術館を利用した鑑賞授業を勧めてくださいました。鑑賞方法に関しては、「よく『見る』ことは大事。気づいたことをどんどん話すことも大事。気づいたことを書き留めるとしっかり記憶に残る。他の人が書いたことをもとに話を広げられる。」「書く』ことを取り入れた鑑賞を紹介してくださいました。後半は、浮世絵の作品を対比させながら詳しい解説をいただきました。

13:00~13:15 諸連絡(地階講堂)

・グループに分かれて対話型鑑賞の進め方



① 自己紹介

全部で13グループに分かれ、まずはじめに、図工・美術の要素を取り入れた自己紹介を行いました。

自己紹介の場所をそれぞれ設定。グループのメンバーの雰囲気と和んでから展示室に入ることにしました。



各グループの自己紹介の様子

② 書くことを取り入れた対話型鑑賞

- ・「付箋を使用して」

作品を見て気づいたことを付箋に書いて貼ったり、「絵の中の登場人物(動物)が何て言っているか」を想像して吹き出し付箋に書いて貼ったりし、それをもとに話し合いをする。

- ・「なりきりギャラリートーク」

作品の作家、作家の親戚・兄弟、作家の弟子、作品の中に描かれている人物(動物)、作品を購入した学芸員など自分で役柄を設定してなりきりギャラリートークをする。

- ・「五感 de 作文」

4~5人のグループになり、五感を使って感じたことを書いた後に作文をつくる。

- ・「人数を変えて」

始めは1人。次は2人。最後は皆で。というように、人数を変えて鑑賞する。

- ・「アート de ビンゴ」

展示室の中の作品をぐるっと見て、9つの気になる作品の一部分をキーワードとしてそれぞれイラストに描き、ペアになった人と交換してその作品を探す。ビンゴになったら、相手に伝え、正解かどうかを尋ねる。どちらかがビンゴになったら終了。その後、「この作品だったらキーワードは何でしょうね。」と1つの作品鑑賞をする。

- ・「作品スケッチ」 作品名:「関係-植物・蓮の時 d e f」 作者名: 河口龍夫

「“蓮の葉”を思い出して描こう。」

「作品を見ながら描こう。」

描いてみて分かったことや感じたことを話し合う。

- ・「白黒と比べて」 作品名:「Rainbow passes slowly」 作者名: 鬚嘔

作品を見る前に、白黒に印刷された作品を見て、どんな色が使われているかを考え、自分だったら・・・と話し合う。その後、実際に見て意見交換。



各グループごとに、書くことを取り入れた対話型鑑賞を行っている様子

参加者から、「2学期以降に授業で取り入れていきたい」「楽しかった」などの意見をいただきました。

14:15~14:35 まとめ



それぞれのグループの対話型鑑賞の様子を内藤先生に見ていただきました。
教育現場で生かしてほしい等のお話がありました。

14:40~15:00 美術館と学校との連携事業紹介



当館作成指導者向け冊子『美術館へ行こう』をもとに学校と美術館との連携事業の紹介をしました。

- 【来館プログラム】
- ・ボランティアガイド
 - ・館内ハローミュージアム
 - ・鑑賞とワークショップ
 - ・簡易模写 等

特に学校団体として利用していただくために、来館見学コース例やボランティアガイドを紹介し、他の施設と併せて来館することを勧めました。
(参加者には、『美術館へ行こう』を1人1冊配布)

アンケートより、「講演会の内容が大変勉強になった」「演習（書くことを取り入れた対話型鑑賞）が楽しかった」「アートカードをつくば美術館でも借りられるといい」「文化センターでのイベントと重ならないようにしてほしい。」などの意見がありました。今後のセミナー計画時に検討したいと思います。